第61回
医学教育セミナーとワークショップ
開催要項・参加者募集

医学教育開発研究センターは、新しい医学教育の開発と普及を目的とした“医学教育セミナーとワークショップ”を毎年4回開催し、全国から多くのご参加をいただいております。第61回医学教育セミナーとワークショップは、岐阜大学で開催いたしますので、奮ってご参加下さい。

岐阜大学 医学教育開発研究センター　藤崎和彦

2016年8月19日(金)～21日(日)　岐阜大学（医学部キャンパス）

2016 夏

セミナー1 ML　世界標準の臨床実習はこれだ

セミナー2 A　卒前・卒後医学教育での選抜におけるマルチプル・ミニ面接法

WS - 1 CD　新専門医制度時代の臨床研修
ー卒前から後期までのシームレスな教育を現場から考える

WS - 2 TL　授業方略ピアレビュー大会

WS - 3 A　アウトカム基盤型カリキュラムにおける学習者評価を考える

WS - 4 ML　医師のプロフェッショナルアイデンティティ形成（PIF）を考える

WS - 5 TL　アクティブラーニング：やる気・関わり・深い学び　FELLOWSHIP

WS - 6 ML　看護教育における模擬患者養成ABC

WS - 7 A　卒前から卒後に至る歯科医療面接のルーブリック評価を作ろう

＊記号（ FELLOWSHIP ）は、フェローシップ対応WS、他（ TL 等）は、アソシエイト認定のための学習領域を表しています。詳細は、MEDCホームページ「アソシエイト・フェローシップのご案内」をご覧ください。

プログラム				
8月19日（金）	PM	WS-1	WS-2	WS-3
	夕	セミナー 1		
8月20日（土）	AM	WS-1	WS-2	WS-4
	PM	WS-5	WS-6	WS-7
	夕	セミナー 2		
	夜	懇親会		
8月21日（日）	AM	WS-5	WS-6	WS-7

MEDC
MEDICAL EDUCATION DEVELOPMENT CENTER, GIFU UNIVERSITY

医学教育共同利用拠点：
岐阜大学医学教育開発研究センター
Tel: 058-230-6470
email: medc@gifu-u.ac.jp

MEDC　検索

セミナー1　世界標準の臨床実習はこれだ

ML

日時：2016年8月19日(金)17:15～18:45

筑波大学の取り組み：筑波大学における参加型臨床実習の実際

講師：**前野哲博**（筑波大学）

概要：筑波大学は、2007年度より78週間の参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ、以下CC）を導入している。具体的には、4～5診療科から構成されるユニット（7つ）を8週ずつ実習する必修CC、希望する診療科を4週×2診療科で実習する選択CC、地域で市中病院実習（6週）＋診療所実習（1週）＋地域滞在型実習（1週）を行う地域CC、自分が興味を持つ施設・領域で実習する自由選択実習(6週)で構成される。実施に当たっては、十分な実習期間を確保するとともに、学生全員への院内PHSの貸与、本学独自の地域医療教育センター・ステーション制度（本学教員が地域医療のフィールドで直接指導するシステム）の活用等、本格的な参加型実習の実現のために様々な取り組みを行ってきた。昨年受審した国際認証を機に、今年度からは「重要な診療科」で長期間実習ができる新カリキュラムを導入予定である。

信州大学の取り組み：多数の地域病院と連携して１診療チームに１学生を配置する新しい臨床実習

講師：**多田　剛**（信州大学）

概要：診療参加型臨床実習を実現するために信州大学は平成19年度から県内の33地域病院と臨床実習にする教育協力協定を結び、6年次前期に１診療チームに1学生を配属する方針で4週間を1コースとする選択制臨床実習を3コース開始した。平成27年度からは臨床実習を4年次後期から開始し、5年次後期に150通りの新しい臨床実習コースを追加することで72週間の実習期間を確保した。また診療科毎に独自の到達目標を定め、地域病院毎にその全医師を対象として新しい臨床実習の説明会を3回開催して協力を求めてきた。さらに形成的な評価を充実させるためにポートフォリオを導入した。平成29年度より4年次後期から1年間の臨床実習は外科、内科あるいは部位別の専門診療科の実習を4週間毎に集約化し、徐々に診療参加型実習へ移行する予定である。

セミナー2　卒前・卒後医学教育での選抜におけるマルチプル・ミニ面接法

A

日時：2016年8月20日(土)17:15～18:15

講師：**吉村仁志**（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター）

概要：卒前・卒後医学教育の候補者選抜において、非認知領域の能力の評価に関心が集まっている。入学・入職時点でその能力をその後「涵養」することが可能かどうか、その潜在能力の判定は極めて重要であるが、科学性のある方法を用いることは容易ではない。従来行われているのは1つの仕切り空間で、複数の面接官が1人の候補者に対して同時に複数の質問を行う面接試験であるが、この方法では面接官の先の質問に対する評価が後の質問に対する評価に影響するなどのバイアスが生じて信頼性に問題が生じる。これを克服するために試みられているのが異なる医師に必要な能力毎に3~10の仕切り空間を設定してOSCE形式で行うマルチプル・ミニ面接法(Multiple Mini-Interview :MMI)である。卒後教育の試みを提示しながら、実行可能性、予測妥当性などにも触れて、今後の運用の可能性を議論したい。

WS-1　新専門医制度時代の臨床研修ー卒前から後期までのシームレスな教育を現場から考える

CD

企画：**松崎淳人**(東邦大学)、千田彰一(日本専門医機構専門医制度検討委員会)、草場鉄周(日本プライマリ・ケア連合学会)、前野哲博(筑波大学)、臨床研修専門官(厚生労働省医政局医事課臨床研修推進室)、宮田靖志(愛知医科大学)、小森　貢(日本医師会)

日時：2016年8月19日(金)13:00～17:00、20日(土)9:00～12:30

概要：平成29年度より、新たなる新専門医制度のもとで、後期研修が始まる。内科・外科・総合診療科は３年＋３年の２階建てとなり、いわゆるマイナー診療領域は、４年ないし５年の後期研修の制度設計となる。一方卒前教育では、「student doctor」として、診療参加型臨床実習の実体化が進みつつある。平成１６年度からの医師臨床研修制度は、地域医療の遍在を助長した等の様々な社会現象と関連して、議論されてきたが、良くも悪くも１０年が経過し、医学教育の日常に定着し、すでに、新制度下の卒業生が、指導医として活躍している。前後に激変を迎えてサンドイッチ状態となる卒後１-２年の臨床研修については、国で、臨床研修の到達目標・評価のあり方が議論されている。今回は最新情報をタスク等から発信いただいた上で、特に新しい「総合診療専門医」領域に焦点をあて、シームレスな「臨床実習・初期・後期臨床研修」の実践について「現場の視点」から、臨床研修の役割と改善の方略等について、議論を深めたい。

対象：診療経験を問わず、卒前から卒後まで連続するシームレスな医学教育・研修に関心のある医師、その他医療関係者（18領域関係医師）　（定員30名）

WS-2　授業方略ピアレビュー大会

TL

企画：**多田　剛**・清水郁夫・森淳一郎(信州大学)、淺田義和(自治医科大学)

日時：2016年8月19日(金)13:00～17:00、20日(土)9:00～12:30

概要：アクティブ・ラーニング、e-ラーニングの授業への応用、反転授業等、新たな授業方略の導入が叫ばれて久しいものの、個々の授業に何をどのように取り入れるかについての議論はまだ深める余地があります。そもそも授業とは学生の学習活動の支援であることを考えれば、どの方略を導入するかではなく、教科のアウトカムや教員の特性などを考慮して授業を個別化させる取り組みの一部として議論されるべきではないでしょうか。今回は様々な授業方略の特性と限界を横断的に整理し、具体的に個々の授業に即した授業手法を構築することを目指します。参加者に授業の概要(既存のものも構想段階のものも歓迎)を持参していただき、改善案を作成する過程を通して上記の目標を目指します。

対象：大学、専門学校等で授業統括に関わる教員。専攻は問わない　（定員20名）

WS-3　アウトカム基盤型カリキュラムにおける学習者評価を考える　A

企画：**伊藤彰一**・山内かづ代・サルチェード ダニエル(千葉大学)

日時：2016年8月19日(金)13:00～17:00

概要：アウトカム基盤型カリキュラムにおいては、学習者のコンピテンシーを真正に評価することが求められます。いわゆる2023年問題に対応するため、本邦医学部・医科大学では医学教育分野別評価基準への対応が求められていますが、より良い対応のためにはグローバルな視点から自大学の医学教育を見直す必要があります。本ワークショップでは、2008年にアウトカム基盤型カリキュラムの導入を開始し、2014年に医学教育分野別評価基準日本版にもとづく分野別外部評価を受審した千葉大学の経験を紹介します。また、カナダで医学を学び医師免許を取得した講師や、国際交流に携わり諸外国の医学教育の状況に詳しい講師の経験や知見を紹介します。WSは二部構成となっており、第一部では自らが担当する授業における学習者評価の改善を検討します。第二部では自大学のカリキュラム全体における学習者評価を概観し、課題解決に向けての取り組みを検討します。※一部英語での説明がありますが、説明スライドには日本語訳も記載します。

対象：授業の評価法改善を検討している方、カリキュラム開発・運営に携わる方、医学教育分野別評価基準に関わる方　（定員30名）

WS-4　医師のプロフェッショナルアイデンティティ形成(PIF)を考える　ML

企画：**松井智子**・佐藤元紀(名古屋大学)、加藤容子(椙山女学園大学)、錦織　宏(京都大学)

日時：2016年8月20日(土)9:00～12:30

概要：昨今、医師として働くことが多様化しています。昔は研究か臨床か?のような二項対立的な構造でしたが、最近は女性医師の多様な働き方にはじまり、医学部を卒業してから起業することについても議論されるようになりました。近年の医学教育学では、プロフェッショナリズムに代わってProfessional Identity Formation(PIF)が注目されてきています。MillerのピラミッドのDOESの上にISを乗せ、「医師としてどう振る舞うべきか」から「どうあるべきか」を問う研究者も現れました(Cruess,2015)。今回は、PIFをレンズ(理論的枠組み)とし、医師としての働き方を価値観のレベルまで掘り下げて議論します。信念対立のない形で、柔軟な発想でシャープで論理的な議論を楽しみにしています。

対象：教員・指導医・研修医・医学生など　（定員30名）

WS-5　アクティブラーニング：やる気・関わり・深い学び　FELLOWSHIP　TL

企画：**西城卓也**・丹羽雅之・今福輪太郎・川上ちひろ・恒川幸司(MEDC)

日時：2016年8月20日(土)13:00～17:00、21日(日)9:00～12:30

概要：「学生は講義で寝てばかり」「新人の学びが遅い」「言われた仕事しかしない」「やる気が感じられない」等学習者に関する愚痴がしばしば議論されます。学習者を受動的から能動的に、依存的から主体的にするためにはどうしたらいいのでしょうか。アクティブ・ラーニングは必ずしも新しい概念ではありませんが、それでも学習者をアクティブにする方法に関してはまだまだ議論の余地があります。世の中において自分の意思で変えられるものは、過去ではなく未来、他人ではなく自分です。学習者が徐々にアクティブになることを目指して、明日からの自分を変えましょう。今回は、アクティブ・ラーニングの概念を学び、事例を検討し、明日からの自分の教育実践に違いをもたらす計画を考えます。

対象：MEDCフェローシッププログラム“メドギフト”のモジュール１参加者限定（医・歯・薬・看・理等医療系教育にかかわる方）　（定員24名）

WS-6　看護教育における模擬患者養成ABC　ML

企画：**阿部恵子**・本田育美(名古屋大学)、藤崎和彦(MEDC)、篠崎恵美子(人間環境大学)

日時：2016年8月20日(土)13:00～17:00、21日(日)9:00～12:30

概要：SNSの普及に伴い、コミュニケーションの手段が拡大し、対人関係の作り方も変化している。患者と関わる看護職には高いコミュニケーション能力が求められるが、実習環境も制限され、十分な練習の場を確保することは難しい。看護基礎教育において、コミュニケーション演習、看護基本技術などで模擬患者(SP)の活用がされて来たものの、その数はまだ多くない。近年注目されるシミュレーション教育において、感情を持つ生身の人間を対象とするSP参加型教育を組み込むことが必要である。SP養成に興味のある人、これから始める人、SP養成に難しさを感じている人等のために、リクルート方法、シナリオ作成、演技、フィードバックなど楽しくSP養成コースを実践しながらそのエッセンスを伝授する。

対象：看護教育でSP養成、SP参加型教育に関わっている、または興味がある、これから始めたいと考えている教員、医療スタッフ　（定員30名）

WS-7　卒前から卒後に至る歯科医療面接のルーブリック評価を作ろう　A

企画：**伊藤孝訓**(日本大学松戸歯学部)、木尾哲朗(九州歯科大学)、長谷川篤司(昭和大学)、鈴木一吉(愛知学院大学)、吉田登志子(岡山大学)、藤崎和彦(MEDC)

日時：2016年8月20日（土）13:00～17:00、21日（日）9:00～12:30

概要：歯科医療は患者との協働作業であり、より良い関係を構築するには、プロフェッショナル教育が重要となる。医療人教養の基本としての行動科学や人間教育は重要な事項である。初診時の医療面接で、患者のもつ病気に対する物語を積極的に傾聴することが、その後行われる治療の成功や満足感、予後の管理にまで大きな影響を及ぼす。医療面接にかかわる学問は広く、学年が上がるに連れて知識の統合をうまく行えるような螺旋型教育を行うことで、臨床場面へ向けてより実践的な知識の整理修得ができる。しかし学修者においてはマイルストーン、アウトカムや評価を提示されなければ施行も振り返りもうまくできない。今回は医療面接教育における初年次から卒業、そして歯科医師のアウトカムに至るまでの学習のロードマップと各段階のコンピテンシーを整理し、具体的なものとするためにルーブリック評価にかかわる水準を明らかにする。

対象：歯科医療教育機関において「医療面接」教育に携わっている教員　（定員20名）

参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。
「MEDC」で簡単検索できます。

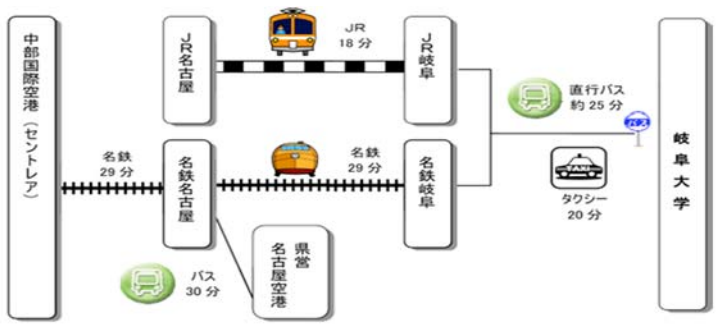
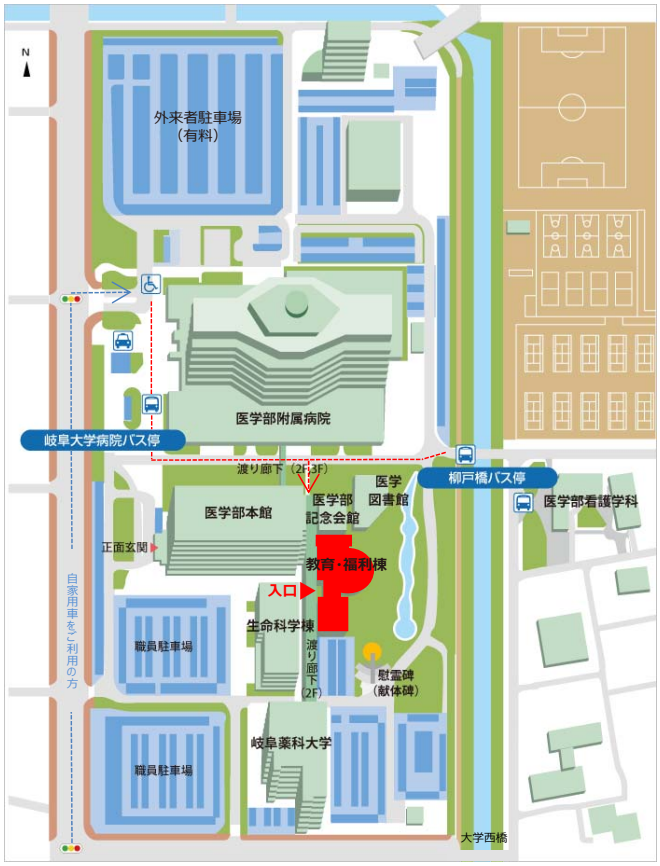
締め切り：2016年8月1日（月）

ホームページからお申し込みできない方は、お電話（058-230-6470）にてご連絡ください。
ワークショップ運営上、各々定員を設けております。
申し込み多数の場合、ご参加いただけないこともあります。ご了承ください。

参加費： 2,000円（資料代）学部学生無料

懇親会費： 3,000円

参加費・懇親会費は、受付時に徴収いたします。
資料代は、資料ならびに第61回セミナーとワークショップの報告が収載されている、「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。参加者には後日、「新しい医学教育の流れ」の冊子およびCD-ROMを送付いたします。(学部学生への送付はありません)

会　場： 岐阜大学医学部 教育・福利棟／医学部記念会館
（〒501-1194 岐阜市柳戸1-1）

JR岐阜駅9番のりば　C70系統バス
岐阜大学病院バス停（終点）または柳戸橋バス停（終点の1つ手前）で下車